



大人も子供も前のめり!!



眞にも入ったよ!



大解剖

現役猟師による解体の説明。普段見ることの無いイノシシの姿に大人子供関係なく真剣に耳を傾ける。

中国四国地方環境事務所

CHUGOKU-SHIKOKU Regional Environment Office

10月27日(日)

〒700-0907 岡山県岡山市北区下石井 1-4-1 岡山第2合同庁舎 11F

<https://chushikoku.env.go.jp/>

今月14日、瀬戸内海国立公園区域にある野呂山ビジターセンター(広島県呉市)にて自然ふれあい行事「イノシシ大解剖

!やっかいもののヒミツを探れ!」が開催された。午前中はイノシシの生態についての座学後、講師とともに野外でイノシシの足跡や仕里山が増え、分布が拡大してしまっただけが悪いわけではない。イノシシの立場を講師が代弁。農作物を食い荒らすイノシシが一方的に悪者にされているが、なぜイノシシが増えてしまったのか参加者に問いかけた。午後は、現役猟師の指導の下、実際にイノシシの解体を体験した。最初に猟師による下準備が始まると、後ずさりする子の姿も。一方、大人たちは前のめりで解体を見守る。作業が進むにつれ、次第に子供たちも率先して解体に参加する姿が見られた。また、講師の猟師からは、猟師は高齢化で年々減少傾向である。また、イノシシの処理には技術が必要であり、簡単ではない。道の駅等で販売されているイノシシ肉は豚肉と比べると高価だが、処理にかかる手間を考えると価格は妥当。猟師は基本ボランティアで、

イノシシの生態を学び、解体を体験

捕獲すれば自治体から報奨金がもらえるが捕獲の際に負うリスクを考慮すると割に合わない。しかし、「猟師になるのはどうすればいいか?」と大人の参加者から前向きな質問もあり、イノシシが取り巻く問題に理解が深まった一日となった。



シカ(奇蹄類)とイノシシ(偶蹄類)の違いについての説明

最優秀賞



「積極的に

水分をしゅるるう」

岡山市 ももたろっさん

● 審査員長のコメント
おともだちの顔でしようか?表情でたくさん水分を補給している雰囲気がよく伝わっています。まだまだ暑い日が続きますので、皆さんも積極的に水分補給をしてくださいね。

今月の

カワイコちゃん

オキザンショウウオ(島根県)



島根県隠岐諸島の島後のみに生息する固有種のオキザンショウウオの赤ちゃん。自然林の残る山地の溪流付近に生息している。つぶら瞳にメロメロになる環境省職員が続出した。

瀬戸内海国立公園指定90周年記念式典

自然、文化、多島美を次世代へ

想定外の地元民登場

倉敷市出身の環境省
植田自然環境局長



主催者挨拶にて環境省植田自然環境局長が倉敷市出身であることが告げられると、思いがけない地元出身者の登場で会場がざわついた。

岡山県の伝統芸能披露

白石踊



式典の冒頭と中盤にアトラクションとして岡山県の伝統芸能である倉敷市の「トコほい下津井節」とユネスコ無形文化遺産に指定されている笠岡市の「白石踊」が披露された。

パネルディスカッションの様子



今月5日に瀬戸内海国立公園90周年記念式典がせとうち児島ホテル（岡山県倉敷市）にて開催された。約300名の関係者が出席した。

岡山市出身で雑誌ディスカバリージャパン編集長高橋俊宏氏の基調講演においては、瀬戸内海地域のポテンシャルの高さに触れられ、嬉野市の事例等にもふまえて、地域資源の掘り起こしや磨き上げについて提案があった。

岡山、広島、香川に移住し地域で活躍されている方々等を招いてのパネルディスカッションでは、地元の人が普段なかなか気が付かない瀬戸内海地域ならではの風習や、素晴らしい、地域の魅力について意見が交わされた。

中四環スポ10号記念特別企画

レンジャー服の歴史

写真協力：ヒデタ氏



5代目（現行モデル）

胸と腕のワッペンが一新された。半袖、長袖のほかに、アウタージャケット、帽子がある。



3代目

「環境庁のレンジャーに制服が無いのはおかしい」という外部の声で、正式なユニフォームとして作成された。上下セットで乾きやすい素材。胸のワッペンには「National Park Ranger」、腕のワッペンには「NPR」の文字があり。



4代目

胸や腕のワッペンを見ても瞬時に「レンジャー」とわからないため「Ranger」と一目でわかるワッペンに変更。内部での評判は…（以下、略）



2代目（平成7年頃？）

全国の国立公園管理事務所が自然公園法のほかに種の保存法も所管するようになり、胸のネームが、組織名の変更に伴って「国立公園・野生生物事務所」に。ズボンは無く、ユニフォームとしての正式な位置づけもまだ無い。



3代目（レンジャー服の再生素材試作品）

時代の流れを受けて、レンジャー服の素材をペットボトル再生品とすべく、モニター希望のあったレンジャー数名に支給された。希少価値大！



初代（昭和61年頃？）

環境庁発足前の厚生省時代に、プレザータイプの緑色のレンジャー服が支給されたそうだが、当時のレンジャーには不人気だったらしい。なので、正確に言うと、これは2代目。若手職員の発想で、おそらく自主製作。賛同した全国の若手職員の間で広まった。市販の綿の作業着に「国立公園管理事務所」のネームの刺繍を付けただけのもの。焦げ茶色のニットタイがセット。ズボンは無く、ユニフォームとしての正式な位置づけも無い。

レンジャー服とは

環境省で自然環境に関わる職員（レンジャーもしくは、自然保護官という。）の制服。レンジャー服にあこがれ環境省に入省する学生もいるとか、いないとか。